

立正佼成会・庭野日敬会長と対談

黒田武志住職は立正佼成会に招かれ大聖堂におもむき、庭野日敬会長と親しく歓談した。庭野会長は現在、世界宗教者平和会議を推進されており、世界に活眼を開く人材育成の留学僧派遣事業に深い理解を示された。詳細は本文24頁に。

(写真提供・『佼成』八月号)





世界に活眼を開く人材を育成したい

庭野先生のご活躍に感銘

庭野・あなたのご活躍は、『中外日報』などにも紹介されていて、以前からお会いしたいと思っていました。

黒田・光栄です。私も、庭野先生のご著書を全巻そろえておりまして、先生のご業績を存じあげているつもりです。それに私は、大聖堂に参上するのは二度目でございます。

庭野・そうですか。

黒田・昭和三十九年の、大聖堂の落成式典に連なりました。当時、私の父の黒田白純が全日本仏教会の事務総長をしていて、落成式典に曹洞宗の代表としてお招きをいただいたのです。私は総持寺（横浜市鶴見区）で修行中でしたが、父が「佼成会はいまに世界の佼成会と呼ばれる教団になるはずだから、おまえも勉強のために行きなさい」というので、若輩ながら参列させ



ていただきました。

庭野・なにか参考になりましたか。

黒田・それはもう……。私どもが大聖堂の玄関で車から降りますと、おたすきをかけたご婦人が整列されていて、非常に丁寧に案内してくださいました。その一挙一動に信仰の深さを感じみ出ているんですね。そういうご婦人方を見たのは初めてで、「ほんとうの信心を持たれているなあ」と強い感銘を受けました。以来、庭野先生のお姿を遠くからお見受けする機会は何回かございましたが、本日は直接お話しすることができて、たいへんありがたいことと思っております。

庭野・それはどうも……。黒田先生は、私どもが進めている世界宗教者平和会議と同じように、宗教協力を進める事業を計画されているそうですね。

黒田・世界宗教者平和会議に代表される庭野先

生のご活躍は、すでに世界的な評価を得ています。それに比べればアリのように小さなことですが、私には世界に仏法をひろめたいという願いがあるわけです。それにはまず、仏教徒として海外で活躍できる人材の育成が肝心だと考えまして、ささやかながら実践活動をつづけております。

庭野・ほんとうに立派なお仕事ですね。

黒田・庭野先生は、法華経の教えにもとづいて世界平和の実現を推進されています。私は禅僧ですが、毎日、法華経の写経をしていて、いわば法華経を心のよりどころにしているわけです。法華経の実践面でいえば、庭野先生と藤井日達先生が現代の仏教のなかで最高の指導者だと信じてきました。

庭野・これはどうも……。黒田先生はたいへん行動的な方で、いまなさっているお仕事は海外派遣僧育英会でしたね。そのお話をうかがいま

しょう。

一口運動の実践

黒田・私は駒沢大学の大学院を出てから鶴見の總持寺や福井の永平寺で修行し、仏舎利奉拝行脚を志して日本一周しました。それからタイに留学したり、アメリカで向こうの人と坐禅したりして、比較的長い期間、海外で生活してきました。日本にもどり、横浜に善光寺という小さな寺を開きましたが、十八年間で予想以上の檀家さんもでき、寺として一応の基盤がまとまりました。そこで報恩行の一端として、海外に派遣する留学僧を育成するため育英会を設立したわけです。この四月で五回生が出ました。

庭野・たしか、育英会の留学僧は宗派や国籍、男女の別を問わないことになっていますね。中国の方も韓国の方もいらっしやるとか……。失礼ですが、育英資金もたいへんでしょう。

黒田・はい。佼成会では「一食運動」を進めていますね。私どもでは、二千数百戸の檀家の方々に「一食をささげてほしい」とお願いしても、なかなかむずかしい。あれは庭野先生のような大指導者がいらつしやるから可能なのです。そこで、毎食一口だけ節約するという「一口運動」を提唱しました。一口というと、一食あたり一家族で約十円の節約になります。そういう浄財を喜捨していただいて、一年間で相当の額になります。

海外での修行を通じて広く世界に活眼を開く人材を育成したい。それと同時に、少しでも多くの世界の方々に、お釈迦さまの教えをひろめたい……。そうした大きな望みを、私に相応した次元で展開しております。

庭野・仏法がひろまるかどうかは人材いかによりますからね。正しい法がひろまらないと、国は栄えない。同時に、法をいきいきとしたも

のにするのは、その人の実践いかによるわけです。

黒田・ほんとうに同感です。日本は世界最大の仏教国でありながら、世界の太勢に即応して教化の実をあげるシステムに欠けています。私は、その面でも人材育成の重要性を痛感しています。それも、国際感覚の豊かな人材の育成が望まれているわけです。

庭野・私のところにも、学林という教育機関があります。大学を卒業した青年が仏教を専門的に学ぶところですが、学林を出た青年がほとんどヨーロッパへ行っています。この青年たちが向こうで法華経の講義をしてくるのです。バチカンで一年ほど勉強させてもらい、キリスト教の教えを学んだうえで、ヨーロッパ諸国の教会や学校で法華経の教えを説くわけです。

黒田・私のほうは微々たる力ですが、息ながくつづけていきたいと思っています。日本を救う

ためには世界を救わなくてはなりませんから
……。

庭野・そのとおりですよ。日本だけ救おう、日本だけよくしようとしても、そうはならない。世界を救おうという気持ちになれば、自然と日本もよくなっていくのです。そして、ほんとうに世界を救うとなると、仏教の教えをひろめるのがいちばんの早道なのです。

もっとアジアを大切にしたい

黒田・庭野先生は、世界宗教者平和会議と同時に、アジア宗教者平和会議を進めていらっしやいますね。

庭野・世界宗教者平和会議の第二回会議がベルギーで開かれたとき、「アジアの宗教者だけで平和会議を開きたい」という声が出てきたわけです。

黒田・私はタイで修行してきたこともあって、

その経験から日本の宗教者も、そして日本のみなさんも、もっともつとアジアを大事にしななければならぬと思っています。

庭野・いまは、政治家や経済界の人たちも、欧米にばかり目が向いていますね。そういう欧米一辺倒の姿勢ではなく、アジアやアフリカのよ

